

令和5年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業  
第1回 オンライン研修 実施報告書

■日時：令和5年6月26日（月）13:00～15:00

■参加者：56名

進行：特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 麻田友子

■タイムテーブル

時刻	内容
12:50	開会前アナウンス
13:00	開会
13:05	災害時の外国人支援 基礎講義 NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 麻田友子
13:40	事例紹介 「大阪北部地震」 (公財)箕面市国際交流協会 事務局次長 岩城あすか 様
14:20	
14:20	グループディスカッション 1.自己紹介 2.講義の感想
14:40	3.自分の地域でこれからやってみたい取り組み
14:40	全体共有
14:55	まとめ *アンケート依頼、次回の案内
15:00	<終了>

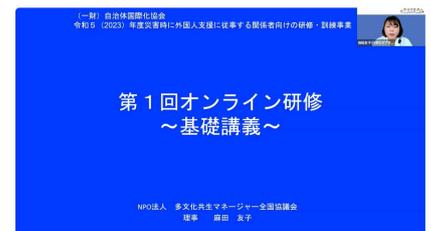
【基礎講義】

特定非営利活動法人

多文化共生マネージャー全国協議会

理事 麻田 友子

概要：災害時に外国人が直面する課題や地域防災における位置づけについて共有し、誰でも使える多言語支援ツールについて紹介した。



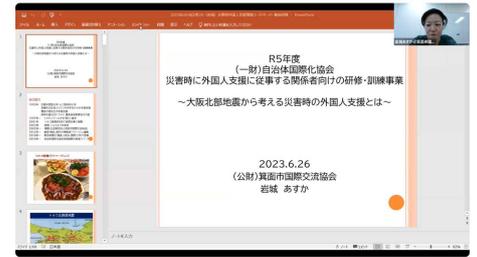
## 【事例紹介】

「大阪北部地震から考える災害時の外国人支援とは」

(公財) 箕面市国際交流協会

事務局次長 岩城 あすか氏

概要：被災前の取り組み、震災時の取り組み、  
震災後の取り組み



## (質疑応答)

Q 茨木市へ協力に行かれた経緯と活動内容は？

A 元々、国際交流ネットワーク大阪の繋がりはあった。茨木市、高槻市は外国人支援が機能していなかった。こちらから、茨木市へお声かけし、中国語の翻訳などをお手伝い。市HPに掲載されたが、数回クリックしないとたどりつけないようなところに掲載。

Q 茨木市の支援を受ける受援力はどうか。

A すべて、こちらにお任せ状態。プロパー職員いない。市の担当者は避難所など現場対応。隣に、箕面市国際交流協会があるからという安心感があったのでは。後日、感謝状をいただいたが、それより体制づくりに尽力してほしい

Q 県と協会、市と協会での情報を得る方法はどうされているか。

A 市担当課は、役職の人は災害対策本部での業務になり、他の担当も避難所運営などに行ってしまう、担当課からの情報はなかった。箕面FMが災害対策本部に入っている、そこからの情報を翻訳していた。

Q どんな情報を発信されていたか。

A ライフラインの情報。給水情報など。避難所からの要請も多くあった。

Q 府（国際交流協会）との連携は。

A 箕面市国際交流協会のFacebookへのアクセスが集中し、サーバーダウンされていたので、Facebookの内容を（公財）大阪府国際交流財団のFacebookでシェアをしたり、箕面市在住の外国人からの問い合わせに対応。（回答：（公財）大阪府国際交流財団 研修参加者）

## 【グループディスカッション（5グループ）】

分け方：所属組織規模

- ・自己紹介
- ・講義の感想
- ・所属団体での取り組み紹介など

## 【全体共有】

### 1 グループからの発表

各組織、県と市などの連携について、災害時支援ボランティアの募集や運営方法などを紹介。また、取組みのできていない地域の参加者からは、他地域の事例を参考に、取り組んでいきたいという意見があった。

### 2 グループからの発表

マニュアルがあった方がいい、フローチャートの方が良いなど様々があり、地域でさらに工夫を重ねていきたいという意見があった。

Q なぜ、箕面市に外国人がたくさん集まったのか

A 岩城さん：茨木市が麻痺している。留学生同士のネットワークがあった。また、インドネシアのグループは日本語ができる人がたくさんいて、自発的に翻訳していくが、微妙にニュアンスが違うので、情報が多すぎることに不安を感じて、避難所に来られたという初パターンがあった。情報がないから避難所に来るというわけでははい。技能実習生などは、友だちと一緒にいたいと来る。

### 3 グループからの発表

このグループでは、すでに県と協会で協定があるというところが複数あった。災害時に活躍してくれる外国人コミュニティーリーダーを育てたい、災害時多言語支援センターの実践的な訓練をしていきたい、という意見があった。マニュアルはあるのですが、細かすぎて使えないので、箕面市のフローチャートはすぐにでも真似したい。

A 岩城さん：箕面市のフローチャートを公開します。元はとよなか国際交流協会のものにアレンジを加えた。

### 4 グループからの発表

関係部署の連携、関係団体との連携を作りたい。防災担当部署と国際担当部署とバラバラで訓練を実施しているので、一緒にやっていきたい。

また、通訳ボランティアなど市民とも協力していきたいという意見があった。当事者の意見や状況の把握については、普段の外国人相談業務との連携でできるのではないかという意見があった。

Q 災害発生時、ビルの高層階にある場合はどう対応されるのか。他の場所にとということになるのだろうが、機材の問題なども出てくるのかと。

A 岩城さん：堺市も豊中も業者に復旧作業をしてもらわないといけない状態だったが、渋滞などで業者が来ない。都市型のオフィスはそのリ

スクがあるので、事前に調べておく。自分のいるところからオンラインでできるようにしておくことが良い。

#### 5 グループからの発表

災害時には支援センターを立ち上げると事前に決まっているところが、複数あった。マニュアルはあるが、実際そのとおりに動けないのではないかと、外国人被災者等のニーズにあっているか等を検証するための訓練も繰り返し行っていくことが大事だと感じた。また、情報発信をしても、きちんと届いているのかについては、経験したことがないので難しさも含めて、よく分かった。

#### 【まとめ】

災害時のマニュアルでも計画でも、作って終わり、情報発信して終わりではなく、日々、ブラッシュアップしていく事が大事。また、周りにも同じ思いを共有してくれる人を増やしていく。また、外国人当事者や関わる人を巻き込んでいけば、情報を届けやすくなる。

#### 【閉会】

【参加団体一覧】

地域ブロック	都道府県	団体名	参加者数
北海道・東北	北海道	(公財)札幌国際プラザ	1名
	青森県	(公財)青森県観光国際交流機構	1名
	宮城県	(公財)仙台観光国際協会	2名
	秋田県	秋田県	1名
関東	埼玉県	埼玉県	2名
	山梨県	山梨県	1名
	神奈川県	(公財)かながわ国際交流財団	2名
	千葉県	千葉県	1名
	茨城県	常総市	1名
	新潟県	新潟市	1名
東海・北陸	富山県	(公財)とやま国際センター	1名
	福井県	(公財)福井県国際交流協会	1名
	静岡県	(公財)静岡県国際交流協会	1名
	岐阜県	(公財)岐阜県国際交流センター	1名
		岐阜県	1名
		高山市	2名
	愛知県	愛知県	1名
		(公財)名古屋国際センター	1名
		名古屋市中区	2名
		犬山市	1名
半田市		1名	
近畿	大阪府	大阪府	2名
		(公財)大阪府国際交流財団	2名
		(公財)大阪国際交流センター	2名
	京都府	京都府	2名
	兵庫県	(公財)兵庫県国際交流協会	1名
		(公財)神戸国際コミュニティセンター	1名
	奈良県	奈良県	1名
	和歌山県	(公財)和歌山県国際交流協会	1名
		和歌山県	1名
中国・四国	鳥取県	(公財)鳥取県国際交流財団	1名
	広島県	(公財)広島平和文化センター	2名
		広島市	1名
		呉市国際交流協会	1名
	山口県	周南市	1名

	香川県	香川県	1名
九州	福岡県	福岡県	1名
		福岡県国際交流センター	3名
		(公財)北九州国際交流協会	2名
	熊本県	(一財)熊本市国際交流振興事業団	2名
		熊本県	1名
		熊本市	1名

# 令和5年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練 事業 第1回 オンライン研修 実施報告書(アンケート)

## 1 あなたのことについて教えてください

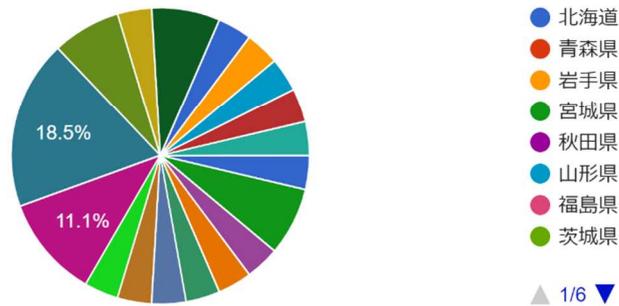
### Q1. 所属団体・部署等 (選択式)

27件の回答



### Q2. 都道府県 (選択式)

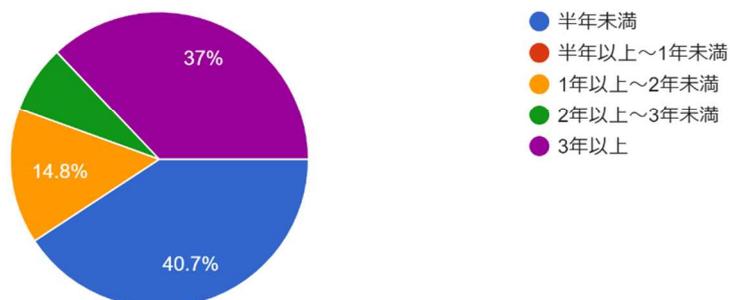
27件の回答



- 北海道・東北 3人
- 関東 1人
- 東海・北陸 6人
- 近畿 9人
- 中国 3人
- 九州 2人

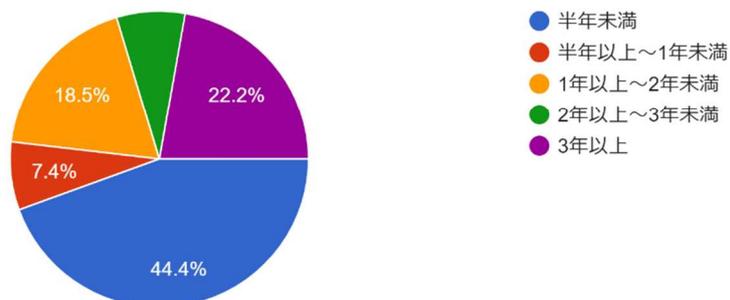
### Q3. 多文化共生関連事業の経験年数（選択式）

27件の回答



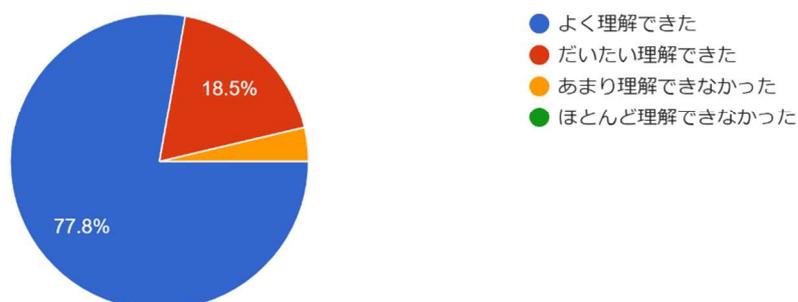
### Q4. 災害時外国人支援関連事業の経験年数（選択式）

27件の回答



### Q5-1. 基礎講義の内容は、ご理解いただけましたか？

27件の回答

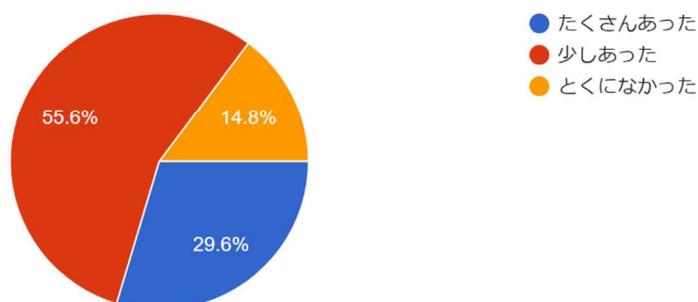


Q5-2. 「Q5-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください。

- ・用務の都合で途中参加となったため
- ・時間が足りないという事で、早口でいっぱいの情報入れましょうというやり方は良くないと思いました。

Q6-1. 基礎講義の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？

27件の回答



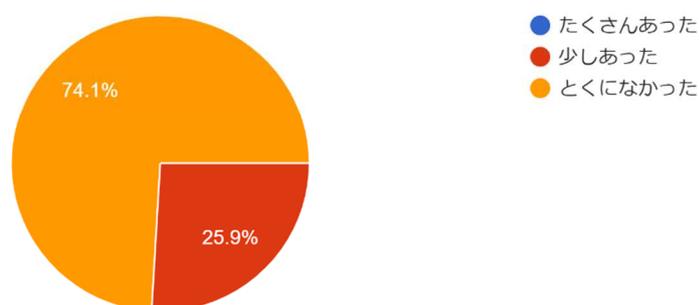
Q6-2. 「Q6-1」で、「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- ・非正規滞在の在留資格が短期滞在
- ・防災情報の多言語化や避難所アプリの存在
- ・災害時の実際の活動について参考になった。まだ正式に立ち上げたことがないので、普段から準備しておくことが大切だと感じた。
- ・多言語支援ツールについて
- ・災害時の連携協定を自治体⇄規模の大きな国際交流協会で締結されていることをよく聞くが、箕面市国際交流協会さんは、締結しないまま今日まで来られているというところが興味深かったですし、「それも有りなんだ」と思いました。
- ・母国と日本での災害の種類が違うという視点がなく、啓発すべき内容のスタートを考え直す必要があることが最も印象に残りました。
- ・クレアのツールライブラリーの存在は知っていましたが、今まであまりしっかり見たことがなかったので、自分の地域で使えるものを調べて、研修などで一度使ってみたいと思いました。
- ・様々な多言語ツールや仙台観光国際協会のYouTubeなどを紹介していただき、ありがとうございました。
- ・在留資格に応じた支援内容の検討が必要であること。
- ・災害が実際に起きた時にどのように対応したのか、改善点は何なのか、また全国各地の災害に対する対策などを知ることができました。
- ・様々な多言語支援ツールの紹介をありがとうございます。参考にしていきたいと思います。
- ・不法残留者も避難先などへ来る可能性があり、そのような方々も支援対象となるため、どのように受け入れるか、サポートをおこなうかを考える必要があるということ。
- ・外国人の方々が、避難所へ行かれていたのが驚いた。あまりそういった行動をとられないと思っていた。広報活動等が功を奏したのか。災害時の行動をどのように知っていたのかが気になった。

- ・多言語支援ツールをご紹介頂き、参考にしたいと思いました。
- ・避難所の情報検索は県運営の防災アプリを活用したら、付近の避難所が見つかるとう当財団のFacebook やガイドブックなど外国人住民に案内しておりますが、県外にいる際の避難所の検索方法について、正直まだ考えていません。また、避難所での「多言語医療問診票」の活躍も大変参考になりました。
- ・多言語情報支援のアプリやHP など紹介したところ
- ・今では在住外国人にかかわらずということかもしれませんが、避難所での炊き出しなどについてもアレルギー、宗教上のタブーなども考慮が必要。
- ・マニュアルを作成しただけでは緊急時にうまく機能しない。
- ・訓練においては、在留外国人しか分からないリアルな感覚、悩みを取り入れることが大切。
- ・普段から、市町・国際交流協会・庁内の他の課とコミュニケーションを取っておくことが重要。
- ・どこに行っても近くの避難所を調べることができるアプリなど
- ・「近年の外国人状況」、「多言語支援ツール」の内容は、このような機会などを活用して、自身で把握している内容をアップデートする必要があると感じました。特に、「多言語支援ツール」はどのようなものがあるのか把握しておくとともに、実際に使ってみて災害時に活用できるようにしておく必要があると感じました。
- ・同じ内容の講義を何度か受講しているので、だいたいの内容は知っていたが、国籍別/在留資格別の在留外国人のデータを北九州市のデータと比較してみて、その違いなどに新たな気づきがあった。"
- ・緊急避難時などは言語の壁のみではなく、宗教上の違いなどまで把握し、対応する必要があること。
- ・災害時多言語情報の数々

Q7-1. 基礎講義の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

27件の回答



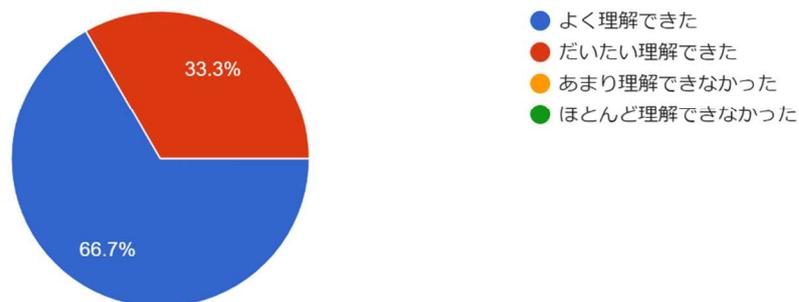
Q7-2 「Q.7-1」で「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- ・今回は市の取組だったが、県の取組や注意すべき点等。

- ・国際交流協会ネットワークおおさかにおける具体的な連携内容
- ・時間が足りないという事で、早口でいっぱいの情報入れましょうというやり方は良くないと思いました。全て分かるはずがないと思いますので、お話したい所からお話する必要がないかどうかを事前に整理するべき。『より少ないということはより多いことになる』というのをちょっと心がけて欲しい。
- ・不法残留者に対して特別な対応はあるのか。多言語支援ツールを防災訓練などでどのように取り入れたかの事例、外国人にどのようにプロモーションしているか。
- ・地域の大学（大阪大学とか）との連携について
- ・最近の入管法改正の動きが災害時の外国人支援実務に与える影響について御教示いただければと思いました。
- ・多言語支援ツールにつきまして、実際に使用してみる時間があれば、イメージしやすかったように思われます。

Q8-1. 事例紹介（大阪北部地震）の内容は、ご理解いただけましたか？

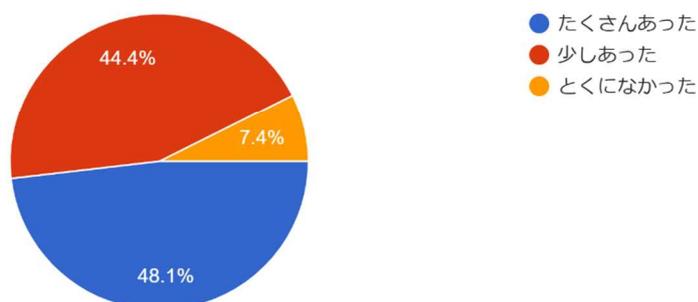
27件の回答



Q8-2. 「Q8-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

- ・早すぎた

Q9-1. 事例紹介（大阪北部地震）の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？  
27件の回答

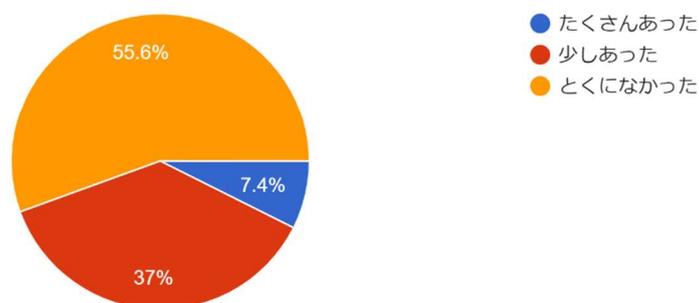


Q9-2. 「Q9-1」で、「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- ・知ったことというか、当時のことを色々と思い出してきました。
- ・避難所の状況や外国人の反応
- ・外国人は要支援者と見られるが、支援者側にもなるということ（通訳リーダー等の例）  
発災したら外国人の方はどのような状況になるのか、どう考えて行動されているのかが具体的に知ることができました。
- ・災害時マニュアルが役に立たなかった教訓から対応チャートを作ったこと。情報選択で必ずもめるから、あらかじめリーダーを決めておくこと、など。
- ・とよなか国際交流協会の地震対応チャートの資料、大変興味がありました。同じ外国人でも自尊感情において大きな格差があったことや「災害時に普段やっていることしかできない」ことなどとても印象に残りました。年に1度の訓練だけではなく、日頃も訓練ができるように工夫したいと思いました。
- ・避難所で語学ボランティアを直接編成するのは、避難所内の連帯感も高まって良い取り組みだと感じました。
- ・避難所で、日本人よりも外国人の人数の方が多い地域があったということを初めて知った。  
発災後からの実際の流れを説明いただいてイメージがわいたので良かったです。
- ・災害時にどこの情報を翻訳するのかというのは考えた事なかったので、大事なのに初めて意識しました。
- ・国際交流協会ネットワークの中で情報交換、連携を図っていること。実際の地震発生時に、日本人より外国人の方が多い避難所があったということ。外国人はそもそも「避難所」が何かというものを知らないだろうと思っていた。逆に避難所の存在だけでなく、どのように運営されるか、避難者はお客様ではないということなども平常時の防災訓練を通して伝えるべきと思った。
- ・避難所の状況

- ・堺市や豊中市などの都市型に比べると、箕面市の方が復旧が早かったこと。豊中も箕面も大差ないと思っていたので、驚いた。
- ・役所との連携について
- ・災害時には想像と違うことが起きるものなのだと思います。想定以上の方が避難所に来られたというお話には驚きました。
- ・外国人防災コミュニティの育成
- ・災害時に多言語支援センターは実際に対応・支援の流れをわかってきた。
- ・避難所に集まった方のほとんどが、外国人だったということ。まったく想定していませんでした。また本市では考えにくいことですが、大型ホテルの近くや、観光客が多い場所が近い避難所には、外国人観光客や単身の在住外国人が多く集まる可能性があると感じた。
- ・マニュアルを作成しただけでは緊急時にうまく機能しない。
- ・訓練においては、在留外国人しか分からないリアルな感覚、悩みを取り入れることが大切。
- ・普段から、市町・国際交流協会・庁内の他の課とコミュニケーションを取っておくことが重要。
- ・同じ地域にある団体との連携が大事であることなど
- ・ガス機器の事例は、言語の問題を克服してもなお残るバリアの存在に気づくことができました。日本人が当たり前と思っていることが（必ずしも納得していることではないですが）支援に際して障壁になることに留意する必要があると思いました。  
また、インドネシアの方々の例のように、たくさんある情報の真偽を確認するため避難所を訪れる、ということも気づきでした。このようなニーズを踏まえた避難所のオペレーションも必要になってくるのでは、と感じました。"
- ・実際の災害時には、マニュアルを全くみることなくチャートが役に立ったとお話しされていたのが印象的だった。
- ・マニュアルを作成して満足してはいけないんだと改めて気付かされた。"
- ・事前に訓練などをしていても、実際の運用上は問題点が多く見つかること。
- ・日本人が当たり前に行うこと（緊急時ガスの元栓を閉めるなど）ができないことにもよく配慮する必要があること。

Q10-1. 事例紹介（大阪北部地震）の中で、疑...とや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？  
27件の回答

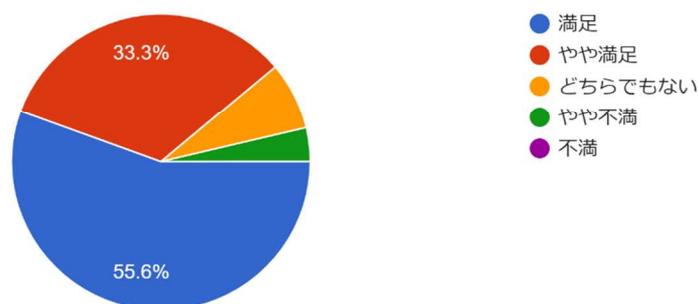


Q10-2「Q.10-1」で「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- ・都道府県の関わり方
  - ・対応チャートを作る時に具体的に工夫されたポイントを教えていただきたいです。
  - ・大阪北部地震の時、休日だったため出勤できる一部の職員のみでの状況下での人員体制、また大量の情報の中から発信情報を決める（情報トリアージ）リーダーの選出などについてもっと詳細な情報があればお聞きしたいなと思いました。
  - ・避難所で募ったとおっしゃっていた通訳リーダーとなっていた方々は、地震の後は何らかの形で継続されていたのか。（防災リーダーとしいえの登録などに繋がったのか）
  - ・多言語支援センター設置訓練や実際の地震の際に、情報を精査する、優先度を整理するのが大変とお話があったが、どのようにして優先順位を付けていたのか。何か指標などは用意しているのか。
  - ・役所との連携について
  - ・対応で一番困ることはどのようなことか。
  - ・定期的にネットワークとなっている連携している団体と会議しても、団体からいつも同じ1人だけが参加したら、団体の他の者が連携自体についてあまり分からないようになってしまって、いざとなるとき、1人が参加していた人がいないなら、大変になるでしょうと思いました。
- 対応言語のきめ細かさに驚きを感じた一方、対応するための人材・連携先の確保は課題となるのではと思いました。災害時において「誰一人取り残さない」ためには、資料に列挙されていない少数言語への対応が求められる場合もあり得ると思われませんが、実際にどこまで対応できるか、しなければならぬかは現場で悩みどころになるものと思われまます。

Q11-1. オンライン研修全体を通じての満足度をご回答ください

27件の回答



Q11-2 Q11-1 の回答の理由やオンライン研修全体を通じてのご意見やご感想をお聞かせください

- ・もう少し、グループディスカッションが長い方がうれしいです。時間を長くできないなら、グループを小さくするのもありかなと思います。
- ・オンラインとはいえ人のつながりができる

- ・他団体の事例を聞くことは大変参考になる。県外の担当者交流の場としてありがたい。
- ・同じテーマの研修でも、立場は様々な方たちが集まりましたので、多様な意見や課題を聞くことができ、参考になりました。
- ・グループの時間が少なく、消化不良でした。そこで他団体から出た疑問や質問が解消されないまま時間切れになってしまいましたし、出せなかった質問もありました。
- ・短い時間でしたが、新たな情報を得られた李、気づかせられたことなどがありました。  
グループワークにおいて、都道府県・市町村・国際交流協会と団体種別が異なると、必要になる取り組みも異なるので、団体種別ごとに編成してもよいのではないかと思いました。また、箕面市国流の資料共有いただきましたが、ずっとロード中の表示だったため、事務局から改めて参加者に共有いただけると幸いです。
- ・今回の研修を通して、全国各地の機関と災害情報の共有ができて、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・今日の研修、ありがとうございました。講師の方の連絡先などお教えいただいたので、今後、またご質問したりできるのが大変ありがたいです。引き続きよろしく申し上げます。
- ・グループディスカッションは時間足りない。今回のテーマのせいでこうなったか分からないですが、グループディスカッションの3、「自分の地域これからやってみたい取り組み」といのは曖昧すぎて、答えづらいと思いました。グループディスカッションで答えられた方が一人しかいなかったです。講師お話しした内容にも結びがあるようなテーマにして欲しかったです。グループディスカッションの時間ではディスカッションになれるようなテーマではなかったので、もうちょっとちゃんとして欲しいと思いました。
- ・本日は貴重なお話をありがとうございました。お陰様で災害時の外国人支援に関する取り組みや考え方を伺うことができました。
- ・情報量が多く勉強になった一方で、全体的に流れが速かったこともあり少々消化不良の箇所もありました。また、グループディスカッションの時間は短く、自己紹介だけで終わってしまいました。人数が多いと全員の発言は難しいので、20分間であれば1グループ4名程度にしていたか、ディスカッションまで難しければ情報交換の時間にしていただけると嬉しいです。
- ・箕面市国際協会の岩城さんがチャットで共有してくれていた資料がダウンロードできなかった。クレア（主催者）から参加者にメールで送付してほしい。
- ・実際に、大阪北部地震を経験し、大学もそのあたりだったので、想像がしやすく大変興味を持って聞くことができた。有事の際に重要なのは、外国籍の方々へすぐに避難所へいってもらい、落ち着いて行動してもらうことであると感じた。その際、通訳リーダー等、言語に堪能な存在が必要不可欠であると強く感じた。
- ・事例紹介が勉強になりました。
- ・内容が豊かな研修会で、ありがとうございました。グループディスカッションのあと、各グループの質問や意見を共有して、多文化共生先進地からのやり方などの意見共有の時間が少し足りないかなと、勝手に思います。

- ・非常時の経験がないため、実際に体験した方の生の話を聞いたのはとても良かった。また、他県の方との意見交換を経て、他県も同じような悩みを抱えていることがわかり、普段から市町とも連携して、情報交換をすることが大切だなと実感した。
- ・Zoom のブレイクアウトルームを利用するなら、各グループに司会をしてもらう人を事前に決めてほしいです。ブレイクアウトルームに入ったら、だれから話せばいいか誰も分からなかったもので、長い沈黙がありました。
- ・貴重なお話を伺うことができ、改めて感謝申し上げます。それだけに、時間の短さが少し残念でした。ディスカッションも、時間の大半が自己紹介で終わってしまい、時間配分について受講者として反省すべきだと感じた一方、時間配分に御配慮をいただければ幸いと感じました。

Q12. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において取り上げると良いと思う内容等があればお聞かせください。

- ・発展型として、オンラインでの支援センター訓練をやってみてはいかがでしょうか？  
マニュアル作成、更新の方法
  - ・市民、災害ボランティアとの連携、活用方法等について
  - ・自治体の国際交流や多文化共生以外の部局（危機管理課など）と国際交流協会の好連携事例  
せっかく今回、いろいろな自治体や協会から具体的な課題や疑問が出されていたので、それら一つずつ拾ってピンポイントで教授・助言いただけるような研修をしていただけたら嬉しいです。参加者は「知識」より具体的な方策を求めています。
- 例) ①ベトナム、ネパール人が増えているがボランティア側の人材が足りない。発掘・育成するには？
- ②スタッフもボラも参集を前提としていたが、これだけコミュツールが発達してきた今、遠隔で機能させることも考えていく必要がある。特に日頃は接する機会の少ない登録ボラとの連携に使える有効なコミュツールは？平時にどういったネットワーク（たとえば LINE ワークスとか）を作っておくのがオススメか？また、それを使った平時の訓練などの事例があれば教えてほしい。
- ・スケジュールの時間分けは良くない。今回は時間通りにできたかもしれないですけど、新しい情報交換はできなかったので、グループディスカッションについて見直ししなければ、グループディスカッションなしでも構わないと思います。
  - ・災害時に外国人へ配慮すべきポイントの具体例(国籍や文化、宗教によってこんな懸念があるということなど)実際の避難訓練への取り組み方。
  - ・答えになっていませんが、外国人向けの防災訓練を計画していて、またはこれから2回目、3回目、定期的に行う団体があると思いますが、どうやって、外国人を集められるか、どうやって参加し続けてくれるか、まだ悩んでいる団体が少なくないです。参考になる実際に行われた「外国人向けの防災ワークショップ」の内容があったら、教えていただきたいです。
  - ・多言語センターの設置について詳しく知りたい。当市の場合、職員数名が国際協会の事務局として従事しているため、災害時は各所に振り分けられるため、多言語センター設置は難しいため、他部署と調整して、対応できる流れを構築する必要がある。

- ・多言語支援センター立ち上げの現地訓練の機会があればと思います。
- ・最後に箕面市の地震対応チャートをシェアしていただいたのがとても有難かった。  
実際に被災した外国人の方の話。（日本に慣れている人と慣れていない人の行動の違いを知りたいです）

以上